



# あまいろだより

手づくり市民メディア

## vol.54 お産を支える「継続ケア」

2023.12.15

### Action Birth For the Future @しが 県民アンケート実施中

妊娠・出産・子育ての中で嬉しかったこと、悲しかったこと、利用したサービス、支えになった支援、あったらいいなと思う支援などなど、リアルな女性・家族の声を集めておられます。



2023年版アンケート

### Books 『BIRTH EPISODE』 お産体験文集

発行者 お産体験記実行委員会 山下江津子 吉原静香  
発行 2016年3月 表紙イラスト 吉原静香

「Rainbow birth」というようにお産には人それぞれ七色のような思いや形があります。(中略)これからお産を経験する方、経験して長い年月がたった方、他多くの方々に手に取ってもらい、お産への助けや励みやお産を思い出す良いきっかけになればという思いでこの文集を作りました。(「ごあいさつ」より)

▶販売先 一般社団法人日野里山フリースクール  
問い合わせ先 090-8577-0742(山下)

### Now on Sale 何度も洗ってつかえるエコラップ Beeswax Wrap ミツロウラップ 販売中!!

オーガニックコットンの生地にミツロウ(たまばん@信楽のニホンミツバチのミツロウ、オーガニックミツロウ)とオーガニックココナッツオイルと松ヤニをいい塩梅にブレンドして、あまいろ探偵団が手づくりしています。

(監修 Biwabochi ちまり)

▶取扱店 Base For Rest (東近江)、自家製酵母パンひとつぶ(能登川)、NPO 碧いびわ湖(安土)、自然食品と生活用品の店 hana(草津)、cafe あわいさ(信楽)

▶発送ご希望の方は、あまいろだよりFB・インスタにメッセージにてお問い合わせください。(送料別途)

- Sサイズ 13x13cm (半分に切ったリンゴなどに)
- Mサイズ 20x20cm (お皿に残ったおかずなどに)
- Lサイズ 26x26cm (サンドイッチやおにぎりなどに)
- LLサイズ 28x40cm、36x36cm (キャベツ半分などに)



あまいろだよりにご意見ご感想をお寄せください  
amairo.media@gmail.com

あまいろだより(天色便り)第54号  
特集 お産を支える「継続ケア」  
編集 あまいろ探偵団  
(北岡七夏・志堂未来・中野和子・藤井朋子・森優子)  
表紙イラスト ロゴ 岸田知之  
発行日 2023年12月15日  
発行 特定非営利活動法人碧いびわ湖  
~大切なことを他人まかせにしない。自分たちで力をあわせてつくる~  
TEL 0748-46-4551 FAX -46-4550  
Eメール info@aoibiwako.org  
ブログ http://aoibiwako.shiga-saku.net/  
びわ湖の森を元気にするkikitoペーパーを  
使用しています(びわ湖の森の間伐材活用) \*kikito

お産を支える「継続ケア」

新たな命がやってきた  
どこで、誰と、どんなふうに産む?  
私の望むお産のかたち  
調べて、聞いて、考える  
でも、近頃ニュースが伝えるのは  
出産をめぐる環境の厳しさ  
出産施設が近くにない  
選択肢もあまりない  
これじゃあ希望も叶わない  
そんなお産の危機の中  
もっと当事者の声を伝えたいと  
動き始めた女性たちがいます  
Birth For the Future@しがで活動するお二人に  
お話を聞きました

### プロフィール

たなか ゆか

田中 由佳 さん

Birth For the Future@しが代表。  
一児の母。事務仕事をこよなく愛する。  
好きな食べ物はりんごとさつまいもの葛煮。



なかい みよう

中井 美容 さん

Birth For the Future@しが副代表。  
三児の母。助産師、産業保健師。  
好きな食べ物は梨。



### Birth For the Future@しが

女性と専門家が協働して活動する団体。女性が望む継続ケア、選べるお産SHIGA、安心できる妊娠・出産・子育てを目指して活動。妊娠・出産・産後についての県民アンケートや、お産についてのお話会などに取り組んでいる。



安心して妊娠・出産・子育てをしたい、という願いとは裏腹に、それを実現できる選択肢がどんどん減ってきていると感じています。今回お話を伺ったお二人は、Birth For the Future®しが(以下BFH®しが)というグループで、滋賀県下の出産や子育て環境を良くしたいと、他の女性や専門家と共に活動されています。



あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

が始まるので、残業時間数や当直の回数とかの労働規制が厳しくなるんです。



中井美容(以下中)産婦人科ばかりじゃなくて、NICU(新生児集中治療室)を診られる小児科医も少ないんです。実は二〇〇六年に奈良であった、容体が急変した妊婦さんの受け入れ先が見つからず亡くなった件も、NICUの当直医師や、NICUのベッドの空き状況が大きく影響したと聞いています。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

あまいろだより(以下あ)まずこの活動が立ち上がった経緯を教えてください。

田中由佳(以下田)全国的にお産する場所が少なくなっている中で、私たちは元々全国の助産師さんとお母さん、お父さんたちと一緒に、出産をめぐるケアのあり方や施策を勉強したり、動いたりしてきています。そんな中、滋賀医科大学付属病院が三十年ぐらいい前に行っていたオープンシステムを、二〇二四年の三月に閉めるという報道があった。オープンシステムというのは、地域の診療所や助産所が滋賀医大の施設を借りて、手術やお産をすることができるとして、でも、コロナ禍もあって、主に利用していた診療所の閉院を機に、オープンシステムも廃止することが決定してしまっています。しかも、それを決めた会議に分娩を扱っている助産師さんはいないし、当事者の声の反映もなかった。選択肢が減るのは私たちなのに。たまたま私たちはそのニュースをいち早く知って、どうしようって相談して、当事者の声を伝えて女性のためのオープンシステムとして今後も続けてほしいなって。それに賛同する人が集まったのが、立ち上げのきっかけです。

いじゃないかって。あ 信頼関係があってその場で「こうしたい」って言えらばいいもんね。田 書いてもらっても「こまごまではできませんよ」って話し合われてたらいいんですけどね。それもないと不満になっちゃう。

『自分が主体、実感できる経験に』中 だから助産師側にもいろんな課題があります。でも、もっと女性や家族が、自分たちが選ぶ側、決める側っていうのを主張していいと思うんです。

あ(b) 私が診療所で産んだ時は、こんなもんかという感想があったけど、つわりで気持ち悪くて上の子もいて大変やーって思いながらも待合室ですつと待ってたり。三人目で自宅出産を選んだら、助産師さんが家に来て、ゆっくり一時間は健診してくれて、上の子たちがさわいでも平気で「何て楽！なんて楽しい！」って思って。助産師さんが「お産はどんなふうにしたの？」とか聞いてくれているんだって。友達の話も聞いたし、私はどうしたいかになっていうのを考えて伝えて。それを思うと診療所のお産は不安はなかったけど、三番目の子を助産師さんと産んだのはほんまに豊かな体験だったな。死産になったり、お産はいろんなことがあるから不安なことがあったとしても、人が「生きる」とはどういうことかかって考えることに繋がっていくやん。子どもと一緒に生きることに、自分とは違う子どもの人生がここにあるやんっていうこととかを実感できる学びに繋がっていったなって。

田 今情報が多すぎて、自分の中で軸があれば選べるけど、ない中で選んで、グラグラと定まらないまま産んで、結局しんどいのは自分なので。そこら辺を妊娠中から一人、信頼して相談できる人がいて、話聞いてもらったり、教えてもらったりしながら、子を産むための軸を作って出産を迎えることができる、やっぱり違いますよ。その後の子育てが、産後うつにもなりにくくなるだろうし、なっても支えてくれる人がいる。だから継続ケアっていう仕組みは、本当に女性も、その家族も、実りある人生に向かう大事な部分になるんじゃないかなと思うんです。

あ(b) 私も、助産師さんと産んで初めて、お産は自分が主体なんやってことを取り戻せる大事な機会にもなるって感じました。

もって当事者の声を政策決定に』田 本当に今、過渡期だと思えます。自宅から一時間圏内で産み場所がない、二時間圏内でないっていう状況が増えていくじゃないですか、このままやったら、だから、これまで専門家と行政で進められてきたところに、当事者の声をもっと入れていきたい。静岡市なんかは三十年くらい前から女性と助産師と一緒に動いてきて、うまく転じて、今は医師と助産師、当事者、議員さん、行政の人とかが同じテーブルで良くなるように話し合う場ができて、そういうことを滋賀でも作っていかたいって思っています。

中 今、行政も「切れ目ない子育て支援をやっています」って言うんですね。妊娠中は保健センターがフォローして、分娩は医療機関がフォローして、一応サービスは切れ目なく提供されている。でも実際の当事者から見ると、担当者が変わるもんだからぶちぶちに切れてる訳です。行政とか医療者と、当事者の実感にすごいギャップがあるように思うので、私はまずそのギャップがあるんですよっていうのを伝えることからかなと思っています。

あ 今後、具体的にはどんな活動を？田 昨年に引き続き、今年も県民対象のアンケートをしています。どうして自分のお産が終わると、すぐに子育てで忙しくなってしまうって、お産の環境がどうなっているのか考えなくちゃ。でも次世代の出産環境にも関わっているので、もう一度思い出して伝えてほしいという思いです。昨年は二百二十一人の方から声を寄せてもらって、その結果を滋賀県の母性衛生学会で、医師や助産師さんらに向けて発表しました。継続ケアについては、どこで出産した方でも九割の人が「望む」と回答してくれたので、そのことを中心に報告して。二回目になる今年も、県内でも地域ごとで持っている課題が違うので、住んでいる地域の子育て支援の内容やそれをどういうふうに感じてはるかかっていう質問項目も入れています。頂いた声は、県や全市町の担当課に直接出向いて伝えていくことができればと思っています。

あ たくさんの声が届くといいですね。

あ たくさんの声が届くといいですね。

あ たくさんの声が届くといいですね。

あ たくさんの声が届くといいですね。

あ たくさんの声が届くといいですね。

あ たくさんの声が届くといいですね。

くれました。二人目のお産はうたな助産所の堀尾助産師さんの介添えで自宅を迎えました。自分が産むんだという自覚を持ったことで行動が変わりました。食事を考え、身体を動かしたいわり、意志がしっかりしました。どういとお産をしたのかを考えることは同時に自分がどう生きたいのかを考えることでもありました。自然に沿って生きたいと思いました。堀尾さんは静かに寄り添って受け止めてくださり、妊娠中から出産、産後と心身ともに支えてくださいました。お産の最中そっと添えられたあたたかい手のぬくもりを感じるだけでとても安心しました。三人目も自宅を迎え、お産も日常の営みの一部なんだ、と感じました。何かあったときに医療があることは本当にありがたいことだと思います。でも本来のお産のすがたはとてシンプルでした。自分のちからと子のちからを信じる。そこから始まります。

持ちになりました。自分なりにプランを考え、診療所に提出しました。けれども心身が本当の意味での主体性を持つことができていないまま、理想だけを想い描いて迎えたお産は、最初に様子を見に来られた看護師さんの冷たい対応に不安を抱えたまま進み、望んでいなかった状況になりました。でもいざ生まれるというときに立ち会ってくださった助産師さんにあたたかく支えられ、無事に長女を出産できて抱き上げたときには嬉しくて涙があふれました。産後は診療所で指導を受けた三時間ごとの授乳に戸惑い、退院後に大きくなつまずき、不安で自信のない状態で地域の助産師さんを訪ねました。「おっぱいをあげるのは赤ちゃんのタイミングで大丈夫。それぞれに個性があるから。」と励まされ、折れていたところが芯を持ちました。長女との経験は大きな学びでした。大切なことを気付かせて

暮らしのコラム  
お産のかたち  
しがやみき  
志 萱 未来  
NPO 法人百葉劇場スタッフ。無農薬・無化学肥料でのお米作りに携る。自然農での家庭菜園を楽しむ。三人の子の母。  
初めての妊娠が分かったとき、一般的な選択として診療所に行き、短い診察と内診台で内診を受ける不快感に戸惑いながらも、こういうものなんだと思っていました。妊娠八か月を過ぎた頃に「いいお産の日 in 滋賀」というイベントがあると聞き行ってみると、助産師さんやお産を迎える助産所のこと、自宅でのお産などを紹介されていて、全く知らなかった世界にとて驚きました。自分がどんなお産をしたいのかをまとめるプランや生まれたばかりの赤ちゃんを胸に抱っこするカンガルーケアなどもそこで知り、こんなふうに母子をまんなかにした考え方があるんだ、とお産に前向きな気